

【大学だより 194 号に掲載していない記事】

京都の大学『学び』フォーラムに多数の高校生が模擬授業を受講

「京都の大学『学び』フォーラム」が開催され、10月4日(日)福知山(会場:京都創成大学)に赤澤講師による『切らずに治すがん治療』、10月31日(土)京都(会場:大谷大学)に向井教授による『もしも、放射線がなかったら?』の演題で模擬授業が行なわれました。福知山会場では17名、京都会場では80名の生徒が受講され活況を呈しました。同時に短大卒業生との相談コーナーを設け、医療における放射線技師の役割、学園生活などアドバイスをしていただきました。



福知山会場
(京都創成大学)



京都会場
(大谷大学)

－ 出前授業等は昨年同様に活発に実施 －

平成 21 年は『出前授業で高校訪問』を活発に実施、『高校教諭の来校』にも対応しています。『修学旅行生の来校』はまだありません。

高校 2 年生が主たる対象で、診療放射線技師と本学の PR を行ない回復基調にある志願者を次年度も確保するため、教員・職員共々、奮闘しております。

実績等をご紹介します。

	高校	対象	日	対応教員
1	京都府立南丹高校	2 年	06/04	－
2	京都市立塔南高校	2 年	06/05	－
3	京都府立南丹高校	教諭	06/19	小田教授
4	大阪府立山田高校	2 年	07/15	－
5	私立京都橘高校	2 年	09/26	遠山講師
6	兵庫県立網干高校	2 年	10/02	－
7	滋賀県立玉川高校	2 年	10/21	赤澤講師
8	京都府立亀岡高校	2 年	11/11	向井教授
9	大阪府立柴島高校	1 年	11/16	－
10	大阪府立高校など (来校)	教諭	12/02	向井教授 藤枝准教授

島津創業記念資料館および島津製作所三条工場の見学報告

平成21年8月31日(月)から11月6日(金)まで10週間の臨床実習を終えた短期大学3年生19名を対象に、遠山講師引率のもと、11月10日(火)午前・島津創業記念資料館と午後・島津製作所三条工場の見学を実施しました。

島津創業記念資料館は京都市内の木屋町二条(江戸時代は京都・大阪を結ぶ水通の要所、明治・大正時代は京都の中心地)にあり、島津製作所創業の地であると共に、本学の創設の地でもあります。現在、文化庁から『国の登録有形文化財』、経済産業省から『近代化産業遺産』に指定され一般開放されています。

館内は、島津製作所の創業者・初代島津源蔵及び本学創設者である二代目・島津源蔵の“科学技術で国を興す”、“科学技術で社会に貢献する”という社是の紹介に始まり、創業以来134年の間に製造されたX線装置、理化学機器などが時代順に展示されています。平成14年、民間技術者として初めてノーベル化学賞を受賞された田中耕一氏のコーナーも設けられています。学生はこれら展示品を興味深く見学しました。

午後は、島津製作所の主力工場である三条工場を訪問しました。平成20年10月に新装オープンしたメデイカルセンターでは、3班に分かれ、一般撮影装置・ポータブル装置、X線TV装置・臨床アプリケーション、血管撮影装置・Cアームテーブル及びPET・CT等、最新装置の操作・デジタル画像の特性に関する説明を受けました。その後、工場内に入りX線管の製造工程を案内していただき、管球の真空排気工程のポイントや前工程で個別に製作されたアノード部とカソード部がバーナーの加熱下で精密にガラス融着し完成品の形状に加工する作業など学内の講義で得られない見聞を広げました。今回は参加人数が少ないこともあり、行き届いた説明を受けることができました。

今回の見学会を通じて参加した学生は、創業記念資料館で本学のルーツを垣間見ることができ、三条工場では、X線装置の黎明期から最新のデジタル医用画像装置までを見聞し、医用X線装置とその技術変遷に関する理解を深める1日となりました。



AED、心肺蘇生法講習会

平成21年11月上旬、大学3年生の診療画像技術学実験Ⅱの一環として「応急手当でのAED-心肺蘇生法について」の講義、実習を園部消防署から講師を招いて開講しました。

救急救命師等の医療従事者のみに認められていた AED(除細動装置)の使用が一般人にも認可され(H16年7月)5年経ち、講習内容がより実践的となり、一連の講習後、さまざまな患者の状況を課題として与えられ、AED-心肺蘇生法の対応能力の習得が図られました。講義では、「救命の連鎖」の中での AED 使用法、心配蘇生法の位置づけを簡単に説明され、実技が行われました。学生は、生存率 50%の心停止 5 分以内の応急処置を意識しながら、AED から流れる操作手順を注聴し、人工呼吸-15 回の心臓マッサージの習得を目指して真剣に受講していました。

